

会報

2012.6.10

第58号

戦没船を記録する会

〒123-0864 東京都足立区鹿浜2-20-8
篠原国雄方

Tel・FAX:03-3897-6259 郵便振替001606-719615

URL:www.ric.hi-ho.ne.jp/senbotusen/

E-mail: senbotu@ric.hi-ho.ne.jp

ビデオ『海なお深く』完成

定期総会・報告集会を開催

一昨年から取り組んで来たビデオ作製の事業は、4月末に『海なお深く』戦没船と船員の記録＝が完成し、5月の連休明けに本会への配分として180枚を受領し、会員とご協力を戴いた各方面に配布し、一段落となりました。

このビデオ作製の経緯は本誌前号でもご報告しましたが、本会が長年にわたって収集した資料を、後世に伝えるためにどういう方法があるかなどの論議から出発して、2010年6月、全日本海員組合が本会の提案を全面的に受け入れ、双方の対策チームが協力してDVD作成に取り組むこととなりました。

しかし本会の原案作製の作業が手間取っていたところに、3月11日の東日本大震災と引き続いての福島第1原発の重大事故が発生。本会は原案の完成と併せ、ビデオ作りの専門家であり海員組合の映画製作の経験もある「青銅プロダクション」(片桐直樹社長)に依頼して、本会の原案を元にシナリオ原案や費用見積書などを海員組合に提示、以後協議を重ねて本年1月に三者間の契約が成立。1月を諸準備期間、2月はロケ、インタビュー、記録・資料等映像撮影、3月編集・仕上げ、4月総仕上げ、完成という運びとなりました。

このビデオが神戸の「戦没した船と海員の資料館」と共に6万有余の戦没船員の鎮魂と、海の平和を守る運動に大きな役割を果たしてくれることを強く期待しています。

ビデオ完成を待つて5月24日に開催された本会本年度第3回理事会は、6月15日開催の第19回定期総会に提出・審議する第18年度活動報告、

目次

ビデオ『海なお深く』完成	1
活動報告・活動方針案	2
第18年度決算報告	3
理事中原厚さんご逝去	3
父の「岩代丸」遭難・漂流記録	4
再録 岩代丸遭難・漂流記録	5
平和のための戦争展 in よこはま	6
編集後記	6

決算報告、第19年度活動方針案などについて協議し、大会へ提案・審議する事を決定しました。

組織の継続については、ビデオ完成を区切りにしてはという意見と、資料編の作製などやり残した仕事があるとの提案もあり、ビデオ作製前の状態に戻るのではとの懸念もあり、大会で論議する事となりました。

また、川島会長はリハビリが必要なため「名誉会長」に、篠原事務局長が退任のため、補充の役員選任が行われることになりました。

ビデオ完成報告集会のご案内

希望者は奮ってご参加ください

戦没船を記録する会理事会は、戦没船のビデオ完成を機に、ビデオ作製に携わった方々をはじめ関係者の皆さんに参加して頂いて「報告会・懇親会」を開催する事としました。会員の方も多数ご参加ください。(事務局までご連絡ください)

開催日時 2012年6月15日 17:30より

開催場所 新橋亭別館 JR新橋駅日比谷口3分

☎03-3580-7818

会費 1人3,000円

第19回定期総会開催告示

戦没船を記録する会 会長 川島 裕
本会の第19回定期総会を下記によって開催いたします。 以上

記

日時 2012年6月15日 14時より

場所 港区立港勤労福祉会館 会議室

議題 第18年度活動報告・決算報告

第19年度活動方針案・予算案

役員選任(臨時)

その他

第19年度活動方針（案）

- 1、組織の存続問題
- 2、「ビデオ」海なお深くの配布と活用
- 3、パネル展の開催
横浜展 5月31日—6月2日
埼玉展 7月28日—8月1日
- 4、資料の収集と整備（CD作製等）
- 5、会報の発行 その他

第18年度活動報告（案）

今年度は、戦没船のDVD作成の準備と東日本大震災が重なって、例年4月開催の定期総会が、7月21日の開催となった。本会が団体として東日本大震災に関わることはなかったため、DVD作製のための一年間という形になり、会報発行などに手が回らなかった。

DVD作成について

2011年5月に本会の「DVD作製の概要とシナリオ（案）」が纏められ、同時に進められていた「青銅プロダクション」のDVD構成案について、6月30日、両者の会合が持たれ意見交換が行われた。その結果が本会の定期総会（7月21日）に報告・検討された後の7月28日、海員組合と本会、青銅プロダクション合同の作製委員会が開催された。

この会議にはDVD作製の構成案と費用見積書が提示され、海員組合が検討の上回答する事になったが、8月3日の海員組合の回答は、計画が過大に過ぎるとして見直しを求めて来た。そのため青銅プロで見積もりを訂正の上、8月26日、本会DVD委員会も説明を受け協議し、海員組合に改訂案を提示した。しかしこの提案も組合の予算をオーバーするとして縮小を求められ、当初計画を大幅に縮小せざるを得ない状況となった。しかしこの機会を逃したら再びこの事業の再興は不可能と判断し、その予算内でDVDを作製することとして、組合と再三打合せを行い、10月27日に縮小した見積書の提案を行った。

この間、海員組合の定期全国大会開催のため、海員組合と本会、青銅プロダクションとの打ち合わせや協

議が遅れ、契約書の調印は1月5日で、作製日程なども決められた。

日程表では1月は打合せ・諸準備期間、2月インタビュー・ロケ、資料・映像撮影、3月は編集、音楽、ナレーション入れなど、4月編集総仕上げ、試写、プレス、完成、納品となった。

完成ビデオは連休の関係で5月10日に本会に届けられた。本会への配分は会員（元会員・遺族等を含む）配布120枚、証言者・協力者・資料提供先など30枚、予備30枚で、予定していた約150枚は郵送または直接配布を行った。

組織と財政

今年度1名の加入申し込みがあったが、会報送付の都度、転居先不明の返送や家族から死亡の通知がある。返送は独自の生活維持が困難になり、家族に引き取られたり、施設に入ったものと思われる。

今年度の会費・寄付金収入は165,200円、支出は638,135円で、3月末（会計年度末）の資産は基本会計152,000円、一般会計504,168円である。支出の最大費目は旅費交通費で、これはDVD作製のための出張や、DVD作製委員会の交通費が殆どであった。

理事会

前回総会以後、理事会の開催は本年1月26日、4月5日のビデオ試写会兼理事会と、5月24日の3回だけで、前2回はビデオ作製が主な議題であった。

DVD委員会

前回定期総会以後は、本会独自のDVD作成会議は1回だけで、ほとんどが青銅プロダクションと合同で、あるいは海員組合を交えた三者の合同委員会であった。また、製作費予算やロケの問題は、本会が意見を言う場所でないため、連絡責任者（事務局長）が立ち会っただけであった。

パネル展

平和のための戦争展 in よこはま、平和のための埼玉の戦争展、静岡・焼津の戦争展などに参加したが、本会独自のパネル展は開催できなかった。

会報発行

DVD作製に手を取られていて、本年1月の会報57号発行が一回だけであった。

決算報告について

本年度の一般会計の収支は、実収入 165,000 円に対して支出は 638,000 円。支出の大部分がDVD作製委員会の交通費で、旅費宿泊費には海員組合青森大会のパネル展への旅費交通費が含まれている。

事務所費、人件費が一切かからないのだが、会費カンパの実納入人員が 35 名という事では限界である。活動報告でも書いているが、会報を送る度に返戻される数が増えているのが、それが実情を物語っている。

戦没船を記録する会 収支報告書

2011年4月1日～2012年3月31日

基本会計

科目	収入	支出	合計
前年度繰越	152,000		152,000
入会金			
その他			
合計	152,000		152,000

一般会計

科目	収入	支出	合計
前年より繰越	977,103		977,103
会費	149,000		149,000
寄付金	6,200		6,200
事業収入			
雑収入	10,000		10,000
収入合計	1,142,303		1,142,303
通信費		66,532	66,532
会議費		6,800	6,800
印刷費		20,800	20,800
機材整備費			
事業費		42,000	42,000
資料作成費			
展示会費			
旅費宿泊費		47,940	47,940
交通費		372,450	372,450
消耗品・雑費		81,613	81,613
支出合計		638,135	638,135
次年度繰越			504,168
総計			1,142,303

繰越金内訳

基本会計	金額	一般会計	金額
現金		現金	88,614
振替貯金	2,000	振替貯金	90,625
銀行預金(労)	150,000	銀行預金	300,000
		銀行預金	17,140
		郵便貯金	7,789
合計	152,000	合計	504,168

会計監査

2012年5月18日

小島 久子

桑島 直矢



理事の中原厚さんご逝去

本会創立の中心的役割を果たし、常任理事や理事を務めておられた中原厚さんは、本年4月1日15時25分、心不全のため自宅で逝去されました。享年85歳。献体登録をしていたため、遺体は同日中に引き取られました。そのため、通夜、告別式など葬儀は一切行われませんでした。

中原さんは1月に吐血性大腸炎で入院しましたが、2月に退院し自宅療養となりました。4月1日に吐血して容態が悪化し亡くなりました。

現在は献体の遺骨が帰ってくるのは2・3年後とのことで、九州の菩提寺に納骨、北九州でお別れ会が行われる予定とご遺族からご案内を戴いております。

中原さんは予科練から戦後船員になり、職場委員や組合執行部として労働運動に取り組むと共に、詩や油絵などにも才能を発揮し、弟が若くして戦没した事から戦没船員遺族会の常任理事を務める中で、船員の戦争体験記録集『海なお深く』パート2の編集に参加、戦没船の碑建立を発議して戦没船を記録する会の創立に取り組み、常に活動の推進役を果たして来ました。

しのぶ会を計画中

中原さんの葬儀が行われなかったため、お別れの機会がなかったとの声も多く、しのぶ会を開催すべく準備を進めています。一応の目安として、没後半年となる9月末か10月初旬頃に開催。呼びかけ人による計画立案とご案内を行い、多くの方々のご協力とご参加で立派な会になればと願っています。

ビデオを受け取りました (敬称略)

謹啓、春の訪れを喜んでいるのに、天候不順による竜巻の被害で、昨年の大震災に続いて今年の未来にも一抹の不安を覚えます。

さて「戦没船の記録」ビデオを送って頂き誠に有難うございました。親類の不幸に伴い見る機会がありませんが、その中ゆっくりと味わい、老人会その他の会合で利用したいと思います。誠にありがとうございます。何より健康第一に。敬具 平山 豊次

拝啓 この度はDVDお送りいただき厚くお礼申し上げます。長年のご苦勞、感謝いたします。その勞作に少しでも協力できたことは小生にとってもはげみになりました。作品を拝見し、動画、資料、証言と分かりやすかったです。特に小生気になっていた機帆船についても取り入れて下さり、またとない今後の励みとなりました。先ずはお礼まで。草々 西口 公章

多くの命が奪われた

父の「岩代丸」遭難漂流記録

まず、河合聡さんの手紙をご紹介します。

前略、「岩代丸」の記録及び赤塚様の資料を送付いただき大変ありがとうございました。

以前、突然お願いしたにも拘らず、ずっと心に留めていただき、この度詳しい資料をいただきました。私の父も岩代丸に乗り組んでおり、救命艇にて九死に一生を得、現在も86才になりますが健在です。

、当時のことは多くを語りませんが、一カ月近い漂流の後ヤップ島に収容され、仮死に近い状態から生還したと話しておりました。この資料につきましては、すぐ父に連絡し送付しましたが、記憶にある方々の名前が浮かんで来て、名簿と一致して大変懐かしく記憶をよみがえらせておりました。

若かった父にとって、この出来事がどれだけ人生に影響を与えたか想像に難いものがありますが、戦時とはいえ、軍人のみならず多くの民間人の命が奪われた事は、非常に残念なことで、心よりご冥福を祈るほかありません。

多くの資料をお送りいただき、大変お手数をおかけしたことを父と共に感謝させていただき、ささやかですがお礼の気持ちと切手をお送りさせていただきます。益々ご健康に留意され、ご自愛の程を祈念致します。有難うございました。草々（菓子折りと切手を送って頂きました）

確か昨年の早い頃に河合さんからご連絡をいただきました。戦没船のホームページで見たが、会報31号(2002年3月30日)「岩代丸遭難・漂流記録」の赤塚さんの連絡先を教えてほしいとのことで、古い事なので探してみますとお返事しておきました。

今年4月になって資料の中からこの一連の資料が出て来たので、その全てのコピーと岩代丸のアルフォト大の写真も添えてお送りしました。

その際に改めて31号の記事(次頁に再録)を見てみたのですが、雷撃により沈没した船の救命艇で20日以上も漂流、一食が乾パン半枚で生き抜いた中で、どの様にして記録し保存したのか、不思議です。

河合さんの父河合永さんは水兵長で、総員名簿の中には水兵長が18人もいて、一番働き盛りの兵隊だったのではないかと思います。なお、私が資料を提供してくれた赤塚さんの父親を(二曹)とした

のは赤塚さんの住所が江東区であるので、現在江東区になっている浅草区が本籍地の、二曹小柳俊次さんとしたもので、間違っているかもしれません。

なお、31号に書かなかった資料に死亡者名簿と思われるものがあり、(軍人)15名、(船員)6名、(便乗者-工員)5名の住所、階級・職名、氏名が書かれていて、軍人と船員は総員名簿と照合できます。

この名簿の船員の職名欄には、機関長には海軍予備少尉〇〇徴備船岩代丸機長奏任待遇と肩書がついていて、二等機士、次席通信士、船匠には判待または判任待と書かれており、判任官待遇であることが示されています(〇は判読不能)。船匠の総員名簿の職名は大工で、属員(当時)に判任官待遇が付いている事は、誤記であるかも知れません。

この記録は極めて貴重なもので、こうした記録を今後どの様に保管し、利用したら良いか考えて、対策を立てなければならないと思っています。

(岩代丸遭難報告)

一任務 第四艦隊司令部 飯沼 隆二 少将 於 給 兵 油 工 内 地 飯 還 看 其 他 便 乘 者 二 月 十 二 日 付 以 下 行 動 記 録 遺 難 漂 流 記 録 等

二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

二十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

三十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

四十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

五十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

六十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

七十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

八十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十一行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十二行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十三行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十四行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九五行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十六行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十七行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十八行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

九十九行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

一百行 勅 諭 遺 難 漂 流 記 録 等

岩代丸 船員名簿

本籍地	(現住所)	職氏名
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	大田 浅井 藤 只	船長 山本 豊 部
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	小村 鈴 木 勇	機長 吉武 英 夫
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	二曹 井 門 正 史	一 運 木 下 茂 次
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	一曹 新 橋 義 興	二 運 久 保 田 久 造
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	二曹 峯 尾 久 保	三 運 村 松 盛 孝
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	一曹 阿 田 政 郎	四 運 権 藤 重 郎
神奈川 藤澤市 藤澤 上村 七五	小柳 俊 次	
愛知 縣 半 田 市 半 田 一 九	愛 知 縣 半 田 市 半 田 一 九	
佐 賀 縣 佐 賀 市 中 川 野 村 早 津 江 津	佐 賀 縣 佐 賀 市 中 川 野 村 早 津 江 津	
大 分 縣 高 崎 市 高 崎 一 二	大 分 縣 高 崎 市 高 崎 一 二	
佐 賀 縣 西 松 浦 市 伊 高 里 町 大 字 殿	佐 賀 縣 西 松 浦 市 伊 高 里 町 大 字 殿	
大 分 縣 佐 賀 市 中 央 區 新 町 一 四 五	大 分 縣 佐 賀 市 中 央 區 新 町 一 四 五	
五 方 市 大 字 下 塔 四 六 一 二	五 方 市 大 字 下 塔 四 六 一 二	
山 口 縣 河 口 市 中 井 一 五 九 一	山 口 縣 河 口 市 中 井 一 五 九 一	

岩代丸遭難・漂流記録

今年の1月に江東区の赤塚さんというご婦人から、岩代丸の遭難に関する一連の資料を送っていただいた。お手紙では亡くなった母親の手記や短歌を本にまとめており、そこに父親の遺品の中から出てきた手記も加え、岩代丸の写真があったら載せたい、ということであった。また、父親から直接この話を聞いたことはないが、岩代丸は小さな漁船だったようで、「戦争から帰ったお父さんは、まるで人が変わってしまった」と亡くなった母親が語っていたとも書かれてあった。

送られてきた資料は「岩代丸遭難報告書」「遭難状況記録」「岩代丸総員名簿」「漂流日報」などであった。これらの記録は海軍軍人であった赤塚さんの父親（二曹）が書かれたものと思われる。

戦時船舶史の岩代丸の記録は僅か4行で、被雷沈没の日時・場所と、船員23名戦死。と書かれている。また、沈没日時は遭難報告書では昭和20年1月13日が、船舶史は15日になっている。

以下、資料によって岩代丸の被雷沈没と救命ボートによる漂流の状況を見てみることにする。

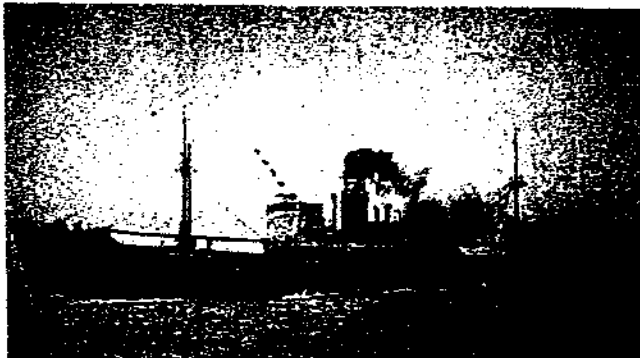
岩代丸は横須賀を発って12月24日クエゼリンに入港。第4艦隊の命により1月12日14時、内地送還の便乗者軍人15名、工員75名を乗せて、ポナペに向かった。この時岩代丸には海軍軍人45名、船員42名が乗船していた。

翌13日1132頃右舷に雷跡を発見、4発中の1発が3番艙前部に命中、爆発を起こして数分後に船体を直立して沈没した。

救命艇は1号艇に約25名、2号艇は落下転覆したのを起こして約26名、4号艇は転覆したまま約6名が移乗、3号艇は船体と共に沈没した。

1号艇は2月5日頃「ヤップ」に収容されたが詳細不明、2号艇は漂流日報通り、4号艇消息なし。

以上の状況から判断すると、岩代丸には船員と海



岩代丸 1943(昭和18)年1月15日、マーシャル群島メジュロ環礁東方海上にあり
公開写真所蔵 3559217 遭難報告書、船員23名戦死。

軍警戒隊、便乗者合わせて177名が乗船していたが、救命艇が4艇しかなかったこと。1・2号艇には約50人が乗船したが、2号艇では約20日間の漂流中に6名が死亡しており、結局、177名中生き残ったのは40名不足と思われること。そして何よりも、こうした遭難船や乗組員たちの詳細な記録が、世間に知らされず忘れ去られていくことは、何とも残念、無念のことである。

漂流日報 (岩代丸2号救命艇)

1月13日 (被雷沈没)

14日 ボート備付けの乾パン1箱目を夕食より1枚ずつ支給

18日 スコールありて天水約3升位取る

20日 乾パン2箱目を開ける

25日 スコールなくて愈々飲料水は一滴もなし

28日 乾パン3箱目を開け、支給1回に半枚となった

29日 一水高木、夕刻死亡せり

30日 船員サロン給仕武知死亡

2月1日 待望のスコールありて備付の水樽に(約2斗)一杯を取り、すっかり水気のなくなった各自も、思う存分飲み大分元気になった。その際水兵長野崎、便乗者森田死亡

2日 一機曹鈴木死亡。この日夕方1つの島影を発見せし艀が帆を立てるも風向き悪くどうしても辿りつく事が出来なかった。

3日 水兵長小島死亡せり。陽差しも大分西に傾いた頃に突然海の彼方に一条の煙を発見した。見る見るうちに水平線の上に現れたるは客船であった。総ての方法を持って救助方の信号をした甲斐あり、客船は船首を此方に向けて走って来る。一同は歓喜して帆走を続ける。波浪は約3米位あったが幸い何等の事故もなく本船に近づいて、1530大阪商船株式会社備前第二南海丸の船員等によって救助され、手厚き手当を受けた。第二南海丸は午後4時30分頃に大宮島(グアム島)に無事入港、投錨した。

4日 午前9時頃に警備隊より係官来るも取調べもなし。軍医の診察を受けた比較的重傷者を大宮島海軍病院に収容された。

以下略。2号艇の遭難者は10日に救助された第二南海丸に乗船。14日、予定よりずっと遅れて午後3時30分頃トラックに入港。直ちに船長が艦隊その他への手続きに奔走し、16日第85潜水艦基地隊に仮入隊。3月8日岩代丸遭難者一行は沖縄に転乗との命あり。

2012年平和のための戦争展 in よこはま

ビデオ『海なお深く』上映

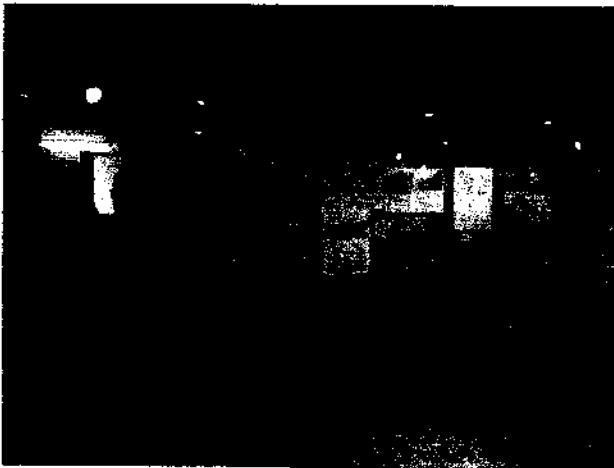
1945年5月29日の横浜大空襲の日に合わせて開催して参りました「平和のための戦争展」は今年で17回目を迎えます。今年は5月27日6月3日に講演会。5月31日～6月2日はパネル展として50枚のパネルを展示。かながわ県民センターで開催されました。

67年前横浜は、当初広島と同様原爆の標的にされました。その標的からはずされた翌日の5月29日、500機のB29とP51戦闘機の攻撃を受け、8千人の命が奪われ、当時の市民の約半数が被災しました。

戦後も横浜は占領され、現在も米軍基地があり被害を受けています。アジアの人々もまた、戦争によって夥しい数の命が奪われましたが、いまでも世界には2万発を超える核兵器があり、即時に発射できる体制にあります。

戦争による悲劇を忘れずに、平和な21世紀を願い、「見つめよう 語り合おう 戦争の過去といま」をテーマに、講演や展示を企画しました。

また、福島原発事故から一年余り、いまだに放射能や汚染水が出し続けられ、被災者は故郷や仕事を奪われ、健康を脅かされ、避難生活や家族離散を余儀なくされています。



横浜でも随所に高濃度の放射能や食品汚染が検出されるなど、原発の被害は計り知れない状態で、こうした事実を伝えるための講演や展示も行われました。

具体的には27日の特別企画として、フェリス女学院大学エコキャンパス研究会による映像と報告「学生たちが描く脱原発の未来マニュアル」。原発事故の被害者である宇宙飛行士秋山豊寛さんの「原発難民になって」の講演。3日の特別企画は、川和中学校の生徒25名による朗読劇「横浜大空襲一十代の戦争」。また「写

真で見る東京大空襲—銀座・原宿…」と題して、東京大空襲・戦災資料センター主任研究員山辺昌彦さんの講演と映像。港区在住の富田直子さんは「硫黄島からの手紙を次世代に伝える」と題して講演されました。

また別室では『海なお深く』戦没船と船員の記録—が上映され、好評でした。ただ何人かからビデオを購入したいとの希望がありましたが、期待に応えることができなかったのは残念でした。

3日間のパネル展には横浜大空襲、学童疎開、絵画、横浜の戦跡・日吉台地下壕・栄区の燃料廠、米軍機墜落事故、第五福竜丸など、多彩な展示が見られました。

戦没船を記録する会は例年、大型船を中心に写真やパネル、絵画などを展示して来ましたが、今年は漁船・機帆船など小型船と、原子力船「むつ」の関連資料を展示しましたが、今年はなぜか元外航船員が多く訪れて、大型船がないと不満が聞かれましたが、過去の実績を説明して了解されました。(吉田 敏長)

編 後 記

年4回発行を目標にしている会報が、1回しか発行できなくて申し訳なく思っています。それでもこの1～2年のビデオ作りの経験は、初めてであり最後であると思うのだから貴重な体験であったと思っています。そのため、日常の仕事がおろそかになってご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

ビデオを発送して多くの電話やお手紙を戴きました。その一部しかご紹介できませんがご容赦をいただいて、厚くお礼を申し上げます。このビデオを見るため係に手伝ってもらう人もいますが、出来るだけ多くの人に見て貰いたいと思っています。

このビデオは予算の関係などで、当初計画より大幅に縮小されましたが、戦争体験者の高齢化などで、今の時期を逃したら再びこうしたビデオ製作は不可能との判断で取り組んできました。内容については大いに論じて頂きたいものと思っています。

戦没船を記録する会が発足した時、事務所を貸した船舶部員協会の事務局長をしていた関係で、当初は会計事務を担当していましたが、前任の事務局長たちが出て行った後の事務局長に任じられて10年以上経過しました。いろいろ不手際が多かったと思いますが、多くの皆さんに支えられて今日に至りました。心から感謝しております。今度の定期総会で事務局長を解任して貰うことになりました。今日までご支援、ご協力を頂いた皆様方に心からお礼を申し上げ、今後のご健勝、ご健闘を祈念致します。事務局長 篠原 國雄